

大阪市立十三中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

令和4年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85.0%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70.0%以上にする。【全国学力・学習状況調査】</p> <p>〔令和4年度 65.9%〕</p> <p>○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を94.2%以上にする。</p> <p>〔令和4年度 90.3%〕</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>1-1 いじめへの対応</p> <p>全教員が「大阪市いじめ対策基本方針」を理解し、毎学期いじめアンケートを実施し調査結果を踏まえて同方針の徹底を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>いじめを受けた生徒が当該行為をいじめでないと否定することをもって「いじめはない」と判断するのではなく、当該生徒の表情や様子をきめ細かく観察するなどして継続して確認し、いじめに該当するか否かを判断している、とする教員の割合を100%にする。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>1-2 不登校への対応</p> <p>○生徒の状況を適切に把握し、抱えている問題に対してより丁寧かつ適切に支援が行えるよう、スクールカウンセラー、教育支援センター、子どもサポートネット等を活用し、個々の状況に応じた段階的な支援策を行う。</p>	

<p>指標</p> <p>前年度不登校生徒の状況を把握し、出席日数、ICT の活用等により本人・保護者と学校がつながった回数、養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につなぐなどによって、前年度より改善した割合を 65.0%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>1－3 問題行動への対応</p> <p>学校年間スローガンを作成し、全校生徒が安心・安全な学校であり、充実した学校生活を送るために大切にしたい思いを形にし、生徒が自らを律する力を身に付けられるよう、目指すべき方向性を常に振り返るようにする。</p>	
<p>指標</p> <p>「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 96. %以上にする。 (大阪府チャレンジテストのアンケート)</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>1－4 児童虐待への対応</p> <p>子どものメンタルヘルス面の課題を確認し、適切な学校規模での支援を行うために、SOS 出し方授業および自殺予防教育を全学年で実施し、被援助指向性（SOS）を高め、援助要請を行いやすい学校風土を醸成し、生徒の尊い命が自殺に傾かないようにする。</p>	
<p>指標</p> <p>子どもの強さと困難さ（SDQ）と SLAQ の学校肯定感を活用し、学校生活アンケートを全校生徒に年に二回実施し、「情緒不安定」の項目について数値を 3.3 以下にする。</p>	
<p>取り組み⑤【基本的な方向 1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>1－5 防災・減災教育の推進</p> <p>上町断層帯地震や南海トラフ巨大地震等の発生に伴う大規模な災害における「減災」の考えを踏まえ、危険を回避し、主体的に行動し、災害時の支援者となる視点で、主体的に行動できる生徒を育成する。</p>	
<p>指標</p> <p>全教職員で「大規模災害初期対応マニュアル」を見直し、地域（7 学校園）、家庭、学校や区と連携した防災・減災教育（研修・学習会・訓練等）を年に 1 回実施する。</p>	
<p>取組内容取り組み⑥【基本的な方向 1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>1－6 安全教育の推進</p> <p>情報モラル教育を促進し、犯罪被害等の危険を回避しネット依存、ゲーム障害、ネットいじめ等生活指導上の課題に適切に対応する。</p>	
<p>指標</p> <p>スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80.0%以上にする。（大阪市の調査 チャレンジテスト）</p>	

<p>⑦【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 2－1 道德教育の推進 答えが一つでない道德的な課題を一人一人が自分のこととしてとらえ、向き合う、「考え、議論する道德」の授業を充実させる。</p> <hr/> <p>指標 「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目を全国平均にする。 (全国学力・学習状況調査) 令和4年度：86.6%</p>	
<p>⑧【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 2－2 キャリア教育の充実 職業に関連したキャリア教育の実施や様々な技術革新に関する学習をとおして、キャリアパスポートを活用し、自身の成長を振り返る。</p> <hr/> <p>指標 高等学校や大学、企業等と連携したキャリア教育を年1回取り組む。</p>	
<p>⑨【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 2－3 人権を尊重する教育の推進 性の多様性の学習をすべての学年で実施し、LGBTQ+についての理解を深め、生徒が在籍している生徒を自然な形で受け止めることができ、自身の性的思考性や性自認について教員に話せる環境を促進する。</p> <hr/> <p>指標 性の多様性の学習後の振り返りにおいて、各クラスにおいて学習に対する理解や認識を持てた内容の感想を持った生徒の割合が70.0%以上となる。</p>	
<p>⑩【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 2－4 インクルーシブ教育の推進 生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援が提供できるように、通常学級の担当者とする学級の担当者が、個別の支援計画や、指導計画などをもとに、連携をとっていく。</p> <hr/> <p>指標 特別支援学級生徒の実態把握のため、年に4回以上特別支援推進委員会を開催する。各学年においては、日々、担任の先生を中心に、連携をとっていく。</p>	
<p>⑪【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 2－5 多文化共生教育の推進 帰国・来日した生徒への日本語指導及び適応指導に際して、共生支援拠点の日本語指導や国際クラブ等と連携し、生徒のアイデンティティの確立や母語母文化の保証に向けた取り組みに参加させるなど、外国につながる生徒の安全で安心な学校生活を実現する。</p> <hr/> <p>指標 外国につながる生徒が母語・母文化の保証につながる活動に参加している割合を40.0%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安心安全な教育環境の実現】 1－1 いじめへの対応</p>	

教員に対するアンケートは、12月実施予定である。

取組内容②【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】

1－2 不登校への対応

担任だけで対応するのではなく、必要に応じて学年教員、行政・福祉などの専門機関との連携を行った。また、適応指導教室やフリースクールなどの学習支援及び登校支援などにかかわる施設との連携や出席認定の活用などを通じて、対象生徒が少しでも前向きになるように支援を行った。

取組内容④【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】

1－4 児童虐待への対応

生徒対象のSOSの出し方授業を通じた被援助指向性を高める取り組みとともに、それを受け止める大人側（教職員、保護者、地域対象）への研修を実施した。また、夏休み明けに教育相談週間をいれるなど、生徒が援助要請できる機会の確保と、受け止めるための時間的な枠組みを取り入れて実践した。

取り組み⑤【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】

1－5 防災・減災教育の推進

「大規模災害初期対応マニュアル」について、教職員に見直しを図っているところである。PTA 実行委員から地域（7 学校園）や家庭と連携した防災訓練実施の要望が出ているが、今年度は校内での防災訓練にとどまっている。

取組内容取り組み⑥【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】

1－6 安全教育の推進

学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）第1層支援（すべての生徒を対象とした取り組み）として、教師の称賛機会を向上する取り組みを行った。目標行動を挨拶に設定したことで、あいさつが活発に行える「本来感（自分らしくいられる）」「被受容感（自分のことをうけとめてくれる）」が高まりつつある。

⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】

2－1 道徳教育の推進

3年生の全国学力・学習状況調査によると、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目については以下の結果であった。

肯定的な回答：全国 88.4% 本校 90.3%、最も肯定的な回答：全国 40.6% 本校 38.9%

⑧【基本的な方向2 豊かな心の育成】

2－2 キャリア教育の充実

1年生が外部の行使を招いてSPトランプを実施した。

⑨【基本的な方向2 豊かな心の育成】

2－3 人権を尊重する教育の推進

文化庁車いすダンス講演会ジェネシスオブエンターテイメントを招いて全校生徒が車いすダンスを観賞した。

藤原 直氏 LGBT 活動家を招いて性の多様性に関する研修を行った。この後カミングアウトする生徒が複数名現れた。

⑩【基本的な方向２ 豊かな心の育成】

２－４ インクルーシブ教育の推進

特別支援推進委員会を、現在２回開催し３回目を計画中である。各学年支援担当と担任や教科の先生と連携を取りながら、学校生活をサポートしている。

⑪【基本的な方向２ 豊かな心の育成】

２－５ 多文化共生教育の推進

３年生が２名ワールドトークに参加し、母語でスピーチを行った。

次年度への改善点

大阪市立十三中学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 35.0%以上にする。</p> <p>○中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。</p> <p>○大阪市英語力調査による GTEC A1 レベル (英検 3 級) 相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 30%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 53.6%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○国語における習熟度別授業やティームティーチングの授業において個別最適化学習に取り組み、語彙力を向上させ、チャレンジテストの「書くこと」の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>令和 4 年度 3 年: 42.3 (府比+1.3 ポイント)</p> <p>1、学力について</p> <p>○数学における習熟度別授業やティームティーチングの授業において個別最適化学習に取り組み、チャレンジテストの「数と式」の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>令和 4 年度 3 年生:</p> <p>○英語における習熟度別授業やティームティーチングの授業において個別最適化学習に取り組み、チャレンジテストの「読むこと」の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>2、体力について</p> <p>○運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合が 50%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>4-1 言語活動・理数教育の充実</p> <p>言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。</p>	

<p>指標</p> <p>・「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく読解力の育成に毎月１回以上授業として取り組むクラスの割合を８割以上を目指す。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>４－２「主体的・対話的で深い学び」の推進</p> <p>一人一人の生徒の状況を把握し、誰一人取り残さない学力の向上に向け、個に応じたきめ細かで継続した指導・支援を充実させる。</p>	
<p>指標</p> <p>中学生チャレンジテストの平均正答率を対府比で１％上げる。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>４－３英語教育の強化</p> <p>「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の英語４技能の総合的な育成に取り組む。</p>	
<p>指標</p> <p>英検３級相当以上の英語力を有する３年生の割合を対前年度比１％上げる。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>４－４全市共通テスト等の実施と分析・活用</p> <p>３年生実施の「全国学力・学習状況調査」及び全学年実施の「中学生チャレンジテスト」、１年生実施の「大阪市版チャレンジテスト plus」の分析をまとめ、具体的な教育活動の改善等を実行する。</p>	
<p>指標</p> <p>「全国学力・学習状況調査」の結果、「中学生チャレンジテスト」大阪市版チャレンジテスト plus」の結果の分析を教科会で行い、職員連絡会で周知し、結果をまとめて保護者に周知する。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向５ 健やかな体の育成】</p> <p>５－１ 体力・運動能力向上のための取り組みの推進</p> <p>○外部の専門家を講師に招き、体力の向上や集団育成を図り、実践していく。</p> <p>○部活動と連携を図り、体力、運動能力向上の取り組みを実践し、基礎体力を増進する機会を充実させる。</p>	
<p>指標</p> <p>○「新体テスト」の結果を分析し、数値目標を掲げ、男女ともに全国平均を上回るようにする。</p> <p>○「全国体力・運動能力、運動習慣等の調査」について、体力合計点の結果を前年度より向上する。</p> <p>○「運動やスポーツをすることが好きですか」の肯定的な回答を前年度より向上させ、「１週間の総運動時間」が６０分未満の割合を前年度より減少させる。</p> <p>○外部の専門家による指導を取り入れた授業を年に１回以上実施する。</p> <p>○部活動と連携を図り、入部率・継続率をデータ管理し、年度末に分析結果を全職員で共有し、HPに掲載する。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向５ 健やかな体の育成】</p> <p>５－２ 健康教育・食育の推進</p> <p>親校と連携して食育指導を行い、SDGSの視点で残食を減らす取り組みを行う。</p>	

<p>指標</p> <p>年に2回、2学期と3学期の同時期の1週間の対前年度比の残食率を削減する。 毎月「食育つうしん」を発行し、健康と食の大切さについての意識を高める。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>4－1 言語活動・理数教育の充実</p> <p>国語科主任が「言語能力育成スキルアップ研修（全3回）を受講した。今後受講した内容をまず教科内で共有し、来年度以降学校全体に広めて行く方法を協議する。また、各学年で国語の授業やテストにおいて、生徒に文章を書かせる時間を作った。</p> <p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>4－3 英語教育の強化</p> <p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>4－4 全市共通テスト等の実施と分析・活用</p> <p>「全国学力・学習状況調査」の結果のうち、生徒質問紙の結果の一部を分析し、職員連絡会で共通理解した。</p> <p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>5－1 体力・運動能力向上のための取り組みの推進</p> <p>体育の授業で「新体力テスト」を実施している。2年生以外、全種目実施できていないが、実施完了次第前年度比較していく。</p> <p>3学期に外部専門家を招きダンス授業を実施する。</p> <p>今後、体育の授業以外で昼休みのボール遊び、行事、部活動などで体力向上、集団育成を充実させる。</p> <p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>5－2 健康教育・食育の推進</p> <p>食に関する意識向上のため、食育通信での啓発に加え、栄養教諭による食育講話を企画している。</p>	

次年度への改善点

大阪市立十三中学校令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <p>○デジタル教材を活用した学習を 5 教科において毎月 1 回以上実施する。</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (基準 2) を満たす教員の割合の基準 1 を 49.7% 以上、基準 2 を 75.4% 以上にする。</p> <p>基準 1 時間外勤務時間が 45 時間を超える月 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下。 基準 2 1 年間の時間外勤務時間が 720 時間以下、時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 6 以下、時間外勤務時間が 100 時間を超える月数 0、直近 2～6 か月の時間外勤務時間の平均が 80 時間を超える月数 0、をすべて満たす。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○職員連絡会や集会などにおいて、天候や不測の事態においても学校生活が継続できるように、オンライン会議システムを併用して実施する。</p> <p>○感染症等による学びの保証に対して、一人 1 台端末を持ち帰ることを習慣づけ、端末の持参率を 95% 以上にする。</p> <p>○大学や区役所との連携・協働による、現場課題の解決につながる研修の企画を年に 2 回以上実施し、効果を検証する。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 6 教育 DL デジタルトランスフォーメーションの推進】</p> <p>6-1 ICT を活用した教育の推進</p> <p>デジタル教材や生徒自身による一人一台端末の活用を促進し、授業や家庭学習の質を高める。</p> <hr/> <p>指標 デジタル教材や一人一台端末の活用に関する研修、研究授業を実施し、その効果を検証し、活用の方法を共有する。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向 6 教育 DL デジタルトランスフォーメーションの推進】</p> <p>6-2 データ等の根拠に基づく施策の推進</p> <p>「全国学力・学習状況調査」や「全国体力・運動能力調査」、「心の天気」や「いじめアンケート」等の全市共通の調査について、各担当者が結果を分析し、授業力の改善や生徒の個別最適な学びを推進する。</p> <hr/> <p>指標 「全国学力・学習状況調査」、「チャレンジテスト」、「チャレンジテスト plus」の実</p>	

<p>施後、各担当者が結果を分析し、職員連絡会で結果を全教職員に周知し、進捗状況のデータ管理の割合を 100%にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>7－1 働き方改革の推進</p> <p>部活動に起因した長時間勤務となっている顧問教員の負担軽減を図るため、必要な部活動指導員の配置を促進する。</p>	
<p>指標</p> <p>部活動指導員の配置を 100%にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>7－2 教員の資質向上・人材の確保</p> <p>メンターが採用 5 年目以下の若手教員対象の研修を企画し、若手教員の授業力向上や様々な校務における支援を行い、教科・領域等の専門性や教員間の同僚性を構築する。</p>	
<p>指標</p> <p>年に 2 回以上若手教員対象の研修を実施し、研修以外でも勉強会や相談会を設け、年末の教員用アンケートで「今の校務にやりがいを感じる」に対して肯定的な回答が 80%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>7－3 大学連携の推進</p> <p>常置委員会等が大学との連携による研修や本校の課題を解決するための講師を依頼した教員研修を企画し、実施する。</p>	
<p>指標</p> <p>大学等との連携により学校現場の課題解決に取り組んだ成果を全市に広める。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>7－5 カリキュラムマネジメントとの推進</p> <p>各教科の年間指導計画を、教科担当者が相互の関係でとらえ、横断的な視点で教育内容を見直し、指導の順序を取り換えるなどして、深い学びを実現する。</p>	
<p>指標</p> <p>異なる教科と連携して横断的な授業を実施する割合を、90%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑦【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <p>8－2 「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取り組み</p> <p>書籍とデジタル両方のメディアを活用する能力を育成するために、一人一人が自ら読みたい本を選び、読書を楽しめる環境の整備を進め、生徒の読書習慣を形成する。</p>	
<p>指標</p> <p>学校図書館貸出冊数の目標冊数を 4 冊とし、全国学力・学習状況調査の「読書は好きだ」という生徒を、8 割を超えるようにする。</p>	
<p>取組内容⑧【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <p>8－3 学校図書館の活性化</p> <p>学校図書館司書と協力し、蔵書のデータベース化により読書の貸し出し状況や管理を可視化して教職員に提示し、図書館の活用を促進する。</p>	
<p>指標</p> <p>毎月の貸し出し冊数および多読書等のデータを図書だよりで公表する。</p>	

<p>取組内容⑨【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 9-1 教育コミュニティづくりの推進 学校の運営に関する計画の策定に保護者や地域の学校関係者の意見を反映するなど開かれた学校運営に努める。</p>	
<p>指標 生徒の登下校や休日の公園の見守り等、また、部活動やキャリア教育における人材活用等、年度末に PTA 活動にかかわる保護者や地域の関係者への聞き取りで充実した活動であったという回答が 70%以上になるようにする。</p>	
<p>取組内容⑩【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 9-2 地域学校協議会活動の推進 元気アップ地域本部事業との連携による学校教育活動の支援を充実させる。</p>	
<p>指標 学校図書館を拠点とした、図書ボランティアや放課後自習教室の開催等を実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DL デジタルトランスフォーメーションの推進】 6-1 ICT を活用した教育の推進</p> <p>取組内容②【基本的な方向 6 教育 DL デジタルトランスフォーメーションの推進】 6-2 データ等の根拠に基づく施策の推進</p> <p>取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 7-1 働き方改革の推進 昨年度までに部活動における外部指導員は、サッカー、剣道、吹奏楽、卓球において採用していたが、今年度は美術、バスケットボールが新たに採用した。顧問より必要だと要望のあった部活は 100%外部指導員を配置したが、今後は部活動指導員に指導や引率の責務をどこまで移譲するかが課題となる。</p> <p>取組内容④【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 7-2 教員の資質向上・人材の確保 11月1日に校内研究授業として若手の模範として英語科の学力向上の授業を参観し、その後に研究討議を実施する。11月22日にはメンターによる若手研修を企画中である。</p> <p>取組内容⑤【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 7-3 大学連携の推進 生徒指導主事が中心となり、教職大学院での研究を校内に広めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ● ● 「エビデンスベースの学校改革」第1回、3回、4回の講義に教員が参加した。 <p>取組内容⑥【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 7-5 カリキュラムマネジメントとの推進 異なる教科と連携した授業を実施した教員は、</p>	

取組内容⑦【基本的な方向 8 生涯学習の支援】

8－2「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取り組み

図書の貸し出し冊数は

取組内容⑧【基本的な方向 8 生涯学習の支援】

8－3 学校図書館の活性化

図書館司書が中心となり蔵書のデータベース化を実施している。図書委員会の生徒が本にバーコードラベルを貼るなどの作業を担っている。

取組内容⑨【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

9－1 教育コミュニティづくりの推進

- PTA 実行委員会において、委員が腕章を付けて地域の見守りを実施する取り組みを開始した。
- 12月より PTA 会員が出欠確認をメールシステムを試行することになった。保護者の朝の欠席連絡が時間にとらわれずに学校に連絡が可能になり、かつ、教員の朝の時間の欠席連絡による電話連絡に費やした時間を削減する。

● 組内容⑩【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

9－2 地域学校協議会活動の推進

元気アップによる定期テスト前の放課後自習教室の開催や、図書ボランティアの読み聞かせが実施された。

次年度への改善点

留意事項

提出するときは、様式2とします。 (様式例2)

- ※太枠は、年度当初に「運営に関する計画」として記述する部分
- ※それ以外は、年度末(中間)に学校園の「自己評価」として記述する部分

大阪市立〇〇小学校 令和〇〇年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標		達成状況
<p>【 全市共通目標 (小・中・高) 】</p> <p>○</p> <p>学校の年度目標</p>	<p>目標の達成状況を4段階で総合的に評価します。中間評価では、評価できる場合のみ、評価します。</p> <p>・総括シートの「年度目標」を転記してください。</p> <p>・関連する複数の年度目標をまとめて記載してもさしつかえありません。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<p>取組内容① 【 指標 】</p> <p>・年度目標の達成に向け、当該年度で「何に、どのように取り組むのか」を記述します。</p> <p>・施策欄に、教育振興基本計画の「基本的な方向」に示す番号と名称を記入します。</p> <p>・取組は重点的に取り組むものから記述し、優先順位がわかるようにします。</p>	A	
<p>取組内容② 【</p>	<p>・この取組は当該年度で「どれだけ取り組むのか」について記述します。</p> <p>・「どれだけ」は、回数や頻度、人数など具体的に記述します。</p>	

<p>実施計画や年間計画どおり等と記述する場合は、必ずその実施計画や年間計画等を添付すること。</p>		<p>取組ごとの進捗状況を4段階でそれぞれ評価します。中間評価では、評価できる取組内容のみ、評価します。</p>
<p>【年度目標】について</p> <p>○</p> <p>⋮</p>		
<p>①</p>	<p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、年度目標の達成状況を数値などにより具体的に記述します。 ・次に、取組の進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などについて記述します。 	

<p>次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、年度目標のうち未達成のものについて、次年度はどのように取り組むのか記述します。 ・次に、課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述します。 	

※シートが1枚に収まらないときは、複数枚になってもさしつかえありません。

(様式例 3)

令和 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 (学校園名) 学校協議会

1 総括についての評価

<p>総括についての評価</p>

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

<p>年度目標：</p>
<p> </p>
<p>年度目標：</p>
<p> </p>

<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>

3 今後の学校園の運営についての意見

--



提出するときは、様式3とします。

（様式例3）

令和 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 ○○小学校 学校協議会

1 総括についての評価

<p>総括シート「本年度の自己評価結果の総括」が妥当かどうかや、その内容に対する学校協議会の意見などを記述します。</p>

2 年度目標ごとの評価

<p>年度目標：</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>○</p>	<p>目標別シートごとに、「達成状況」や「進捗状況」の評価が妥当かどうかや、「結果と分析」欄や「次年度への改善点」欄の内容に対する学校協議会の意見を記述します。</p>
<p>年度目標：</p>	

・
・
・
・
・
・

3 今後の学校運営についての意見

○

次年度以降の学校運営はどうあるべきかなど、今後の学校運営全般に対する学校協議会の意見を記述します。

※シートが1枚に収まらないときは、複数枚になってもさしつかえありません。